

久米康生 著 ————— 2012年10月25日発売!

# 和紙文化研究事典

A5判上製 448頁 定価(本体7800円+税) ISBN 978-4-588-32127-6 C0021

日本の代表的伝統工芸品である手漉き和紙は、書写材としてはもとより、布や皮革にも代用しうる用途の多彩さと強度、さらに「質の美」において世界に類を見ない。しかし、D.ハンターやR. H.クラパートンらによって絶賛されながらも、国内での関心は低く、研究者の層も薄いことから、多くの誤謬が「通説」としてまかり通ってきた。その現状を改善し、和紙の伝統を後世に正しく伝えるべく1995年に刊行され、高い評価を得た『和紙文化辞典』(わがみ堂)に、新稿「和紙文化の歴史」を加え、平成の大合併による地名表記などを大幅に改訂した増補版。著者が1989年に創設し、二十年余にわたって代表をつとめた和紙文化研究会における活動の集大成。



コウゾ蒸しの図  
(紙の博物館蔵『紙漉重宝記』より)

## ■ 主要目次

**和紙文化の歴史** (紙つくりは中国前漢代に始まる/古代日本の紙/王朝文化を支えた紙屋紙と檀紙/中世武家社会の紙/近世町人社会の重要な生活物資に/多彩な生活文化用品としての加工/洋紙の圧力に耐えて守る伝統)

**和紙製法の特徴** (製紙原料の特質/丹念な手づくり/丁重な紙料つくり/洗練された紙漉き/和紙の仕上げ/粘剤のすぐれた作用/ネリを抽出する植物/填料としての米粉と白土)

**和紙の寸法 全国の紙郷分布**

**和紙文化用語解説** 約1570項目 図版約250点

**和紙史略年表 和紙文化関係の主要文献**

## ■ 著者: 久米康生 (くめ やすお)

1921年、徳島県に生まれる。1946年より毎日新聞記者、1976年に定年退職後、和紙の研究に専念、1989年から2011年まで和紙文化研究会代表、現在、同研究会名誉会長、和紙関係の著書・編著は三十点余におよぶ。主著に、『和紙文化誌』(毎日コミュニケーションズ)、『和紙文化辞典』(わがみ堂)、『和紙の源流』(岩波書店)、『彩飾和紙譜』(平凡社)、『和紙生活誌』(雄松堂書店)、訳書に、銭存訓『中国の紙と印刷の文化史』(法政大学出版局)がある。

----- 切り取って最寄りの書店にお渡し下さい -----

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-7 **法政大学出版局** TEL 03-5214-5540 / FAX 03-5214-5542

## 和紙文化研究事典 ( 冊)

注  
文  
書

ISBN 978-4-588-32127-6 C1021 定価8,190円(本体7,800円+税)

お名前: \_\_\_\_\_  
ご住所: \_\_\_\_\_  
お電話: \_\_\_\_\_

書店名・  
番線